

【2級技能検定建築大工技能士(大工工事作業)の資格取得で取り組んだこと】

青森県立弘前高等技術専門学校 建築システム工学科2年 松橋 理那

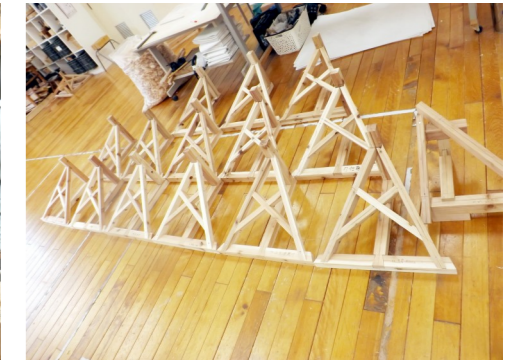
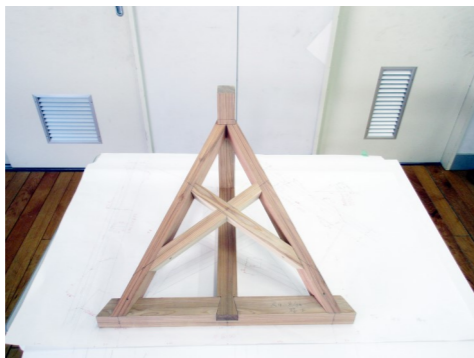
私は中学生のころからものづくりに関心を持ち、将来はものづくりに関係する仕事に就きたいと考えていました。ものづくりにはいろいろな職種があり、どの職種が自分に合っているか何気なく窓から外を眺めていると、木を見ているのが好きな自分に気がつきました。また、中学校の技術の授業では木材を使ったものづくりが楽しかったこともあり、地元の青森県立弘前工業高等学校の建築科に進路を決めました。高校では学業と部活の両立と課題研究に力を入れていたので、高校在学中に技能検定を受検する機会を逃してしまいました。いざ、これからの進路を考えてみると、資格を持たないまま就職するより



は、もっと建築に関する知識と技能を身に付け、資格を取得してから現場で即戦力となって仕事をしたいと思い、こちらも地元にある職業訓練校の青森県立弘前高等技術専門校の建築システム工学科へ進路を決めて入校することにしました。

学校で学ぶ2年間は、木造建築に関する授業と実習に特化していたので、1年生の前期は建築の基本的な知識や手工具の整備の仕方、3級建築大工技能検定の課題を中心に勉強しました。後期になるとクラス全員が2級建築大工技能検定の実技試験を受検することになっており、技能検定は等級によって試験内容は異なり、2級技能検定は3級技能検定と比較すると課題の難易度がかなり上がっていました。

また、昨年度の課題から実技試験の課題や試験時間が大幅に変更となったこともあり、自宅でも時間を見つけて現寸図を何度も書きました。学校での実習中の練習でも課題の作成に真面目に取り組んでいましたが、なかなかうまく課題を作り上げることができませんでした。もっと真剣に取り組まなければと自主練習をしても思うような成果が出ませんでした。しかし、担当の先生から自分の弱みについて分析するよう言われ、改善する方法を考えるようになってからは、手工具の取扱いや部材の加工スピードが驚くほど上達することができました。



令和5年2月8日(水)に実技試験当日となり、建築システム工学科の1年生が2級建築大工技能検定実技試験にチャレンジしました。実技試験は朝8時45分からスタートし、12時15分までの3時間30分となっており、原寸の図面を作成した後、木ごしらえと部材に墨付けをして部材に付けた墨どおりに部材を加工して組立て作業をしました。

2級技能検定の課題は住宅の屋根の一部である「屋根筋かいを用いた小屋組」と呼ばれる課題ですが、それに伴って振れ垂木に合わせて交差した筋かいを隙間なく取り付けなければなりません。作業ではカンナ掛けも腕が痛くなるほどフルに使います。制限時間があり、汗だくになるくらい本気でやらないと時間に間に合わないので、検定が終わるころには心身が消耗して疲れ切ってしまいます。

実技試験は、普段の訓練で実習として使っている実習場が会場となり実施されました。試験当日はホームグラウンドということもあり、会場の雰囲気にもまれることなく、練習の成果を十分に発揮することができました。



検定を受検して振り返ってみると、9月から試行試験課題に取り組み、課題製作の時間が縮まらなかったのも、不安な個所は自宅に持ち帰り何度も練習し、本番前の練習では時間内に課題を仕上げ、精度も上げることができたと思います。特に一番力を入れて取り組んだことは、カンナやノミの刃物研ぎをしっかりとやったことや両刃鋸を上手く使って精度よく部材を切断することを心掛けました。検定の課題練習では、垂木と筋違いの取り合いの部分にいつも段差ができていましたが、検定試験では部材組立て時に部材同士に段差もなく、面一にできたこともあり、検定中は大きなミスもなく制限時間内に完成させることができたので、自分なりにはとても満足のいく出来映えの作品を完成させることができたのでホッとしました。

検定試験から約1か月後の令和5年3月10日(金)の合格発表では、無事、2級技能検定建築大工技能士の実技試験に合格することができました。この経験から、努力量だけではなく正しい方法を取らなければ結果が出ないことが分かりました。社会に出てからは乗り越えなければならないことがたくさんあるかと思いますが、その時は、ただがむしゃらに取り組むのではなく、何を改善すれば克服できるのかを考えて努力を重ねたいと考えています。

